

21:9 また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」

21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。

21:11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。

21:12 都には、大きな高い城壁があり、十二の門があった。門の上には十二人の御使いがいた。また、名前が刻まれていたが、それはイスラエルの子らの十二部族の名前であった。

21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

21:14 都の城壁には十二の土台石があり、それには、子羊の十二使徒の、十二の名が刻まれていた。

21:15 また、私に語りかけた御使いは、都とその門と城壁を測るために金の測り竿を持っていた。

21:16 都は四角形で、長さとは幅は同じである。御使いが都をその竿で測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

21:17 また城壁を測ると、百四十四ペキスあった。これは人間の尺度であるが、御使いの尺度も同じであった。

21:18 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。

21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、

21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21:21 十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。

「子羊の妻である花嫁」とはイエス様との永遠の愛によって結ばれた者、すなわち救われたクリスチャンたちであり、その集合体である教会のことです。ここでは救われた者たちにどのれほどのすばらしい栄光が待っているかが明らかになります。

「聖なる都新しいエルサレム」の様子がまさのそれです。すなわち最終的な神の国は、この世のものとは全く違う栄光に満ちたものであることがわかります。

私たちは地上では苦しいこともありますし、理不尽なことも敬虔しますが、主はこのような栄光を用意してくださるのです。それは主の全能のゆえであり、また私たち一人一人を愛しておられるゆえです。主に信頼し、永遠の希望を持って生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

